移住・定住・交流推進支援事業

ニセコが目指す唯一無二のワーケーション

―大自然と利便性が強み、夏の遊休施設を活用―

（北海道倶知安町）

一般社団法人倶知安観光協会 ● ラミレズ　麻衣

都市から地方への移住・交流は、人口減少社会における地域活性化策の柱として期待される。地域活性化センターでは、「移住・定住・交流推進支援事業」として、地域団体や市町村等が自主的・主体的に実施する都市住民受け入れなどの事業を支援している。今回、2020年度に同事業を活用した北海道倶知安町の一般社団法人倶知安観光協会のラミレズ麻衣氏に、その取り組みをご紹介いただいた。

（企画グループ）

「ニセコくっちゃんエリア」とは

倶知安町が位置するニセコエリアは、札幌から車で1時間半、新千歳空港から車で2～3時間の距離にあります。広大で肥沃な土地を生かした農業の他、世界的に有名なパウダースノーにより、世界中からお客様に来ていただいており観光業も盛んです。また令和元年にG20観光大臣会合が開催されました。令和12年度末には北海道新幹線が延伸し駅ができる予定であり、札幌まで続く高速道路も整備されます。

住んでよし訪れてよしの観光地

世界中のお客様が年々増加していることへの期待もあり、地価上昇率が毎年全国1位となるほど不動産投資が進んでいます。新型コロナウイルス感染症が拡大する前は、人口わずか1万5000人程度である町に人口の約100倍のお客様に来ていただいていました。

倶知安町を含むニセコ観光圏では、「住んでよし訪れてよし」の観光地域づくりを推進しています。来てくださるお客様に満足いただくためには、まずは住民が住みやすい地域づくりが前提と考え、取り組んでいます。

避暑地としてのニセコくっちゃん

観光の閑散期は、春から秋にかけてのグリーンシーズンです。倶知安観光協会では、平成23年より「ニセコロングステイ事業」を実施してきました。これは、本州に在住するアクティブシニア層が避暑を目的に7～9月に1カ月半程度滞在するのをサポートする事業です。毎年約500組のお客様が長期間滞在し、5年以上リピートしているお客様が70%を超えます。当協会では、ウェルカムパーティやゴルフコンペを開催し、お客様同士は「夏の間のご近所さん」としてのつながりを楽しんでいます。

事業を開始した平成23年に比べ、ニセコエリア全体もグリーンシーズンのアクティビティが増えており、アクティブシニア層のみならずファミリー層にもお楽しみいただける観光地となってきています。

滞在型旅行の一つとしてのワーケーション

夏は国内のアクティブシニア層が長期滞在し、冬はスノースポーツを楽しむ世界中のお客様が平均3・07泊します（令和元年度倶知安町観光統計）。もちろん日帰りやショートステイでお楽しみいただくこともありますが、「季節や国籍を問わず滞在型旅行を好む方々にリピートしていただいている」観光地といえます。

ワーケーションは、アクティブファミリー層誘客を目的に、滞在型旅行の一形態として推進してきました。倶知安町が滞在型旅行の目的地として好まれる理由は以下の四つです。

①アクセスが便利である

自然豊かな場所でありながらアクセスが便利であるだけではなく、周辺には積丹ブルーで有名な積丹半島や果物狩りで有名な仁木町、温泉で有名な洞爺湖もあり、ニセコエリアのみならず東西南北さまざまに楽しめるロケーションにあります。

②Wi-Fi可能な

レストランやカフェが多い

外国人が長期滞在することもあり、リゾートエリアのカフェやレストランにはほぼWi-Fiが整備されています。

③宿泊施設が過ごしやすい

キッチンや洗濯機など生活に必要な設備が整った宿泊施設（コンドミニアムや戸建て）が400棟以上あります。ダイニングとリビングで十分なスペースがある施設が多く、仕事スペースとリラクゼーションスペース、睡眠スペースを確保することができます。

④生活に欠かせない施設がそろっている

田舎でありながら、中型スーパー、ホームセンター、家電量販店やドラッグストアなどがそろっており、日常生活の利便性があります。滞在型旅行は日常生活が不便なく過ごせることも重要です。生活必需品が容易に購入できる点は当エリアの優位性と考えています。

ワーケーションニセコ事業

令和2年度に「移住・定住・交流推進支援事業助成金」を活用し、「ワーケーションニセコ事業」実証事業を開始しました。既にワーケーション滞在地としての素地は整っていたので、当協会がまず注力したのは、エリア内事業者へのワーケーション認知を広めること、いわば最初のろうそくに火をつける事です。ワーケーションが事業者にとってビジネスチャンスとなるのであれば、その炎は自然とエリア内に広がっていきます。エリア全体の観光推進を担う当協会は、事業者のビジネスの下支えをするべきと考えています。まずは夏場稼働していないスキー場の遊休施設を借り、夏期限定のシェアオフィスを試験運用しました。昨今の状況から満足にPRできない状況にありましたが、住民や滞在者が利用し、北海道内のテレビや新聞で掲載されました。

また専用のウェブサイトを作成し、SNSキャンペーンも実施しました。エリア内でのワーケーションへの認知、さらにワーケーションを利用したビジネスの輪が広がり、シェアオフィス試験運用後から今年に至るまで、ホテルの1室を利用したシェアオフィスやレストラン・カフェでのワーケーションサービス、また宿泊施設によるワーケーションプランなどワーケーションをビジネスに取り込む動きが新たに出てきました。

ワーケーションニセコの実現へ

エリア内での認知を主とした1年目、エリア外へのPRへと進んだ2年目を終え、実際に滞在する方々をお迎えし、ニーズが十分にあることが分かりました。令和4年度からはさらに一歩進み、心と体を内面から整えるワーケーションに取り組みます。滞在された方の満足度を上げ、ニセコでリゾートワーケーションの醍醐味を体感いただけるよう事業を実施していきたいと考えています。

楽しいアクティビティが豊富
（©NAC ニセコアドベンチャーセンター）

羊蹄山を1周するルートはロードバイク利用者に人気
（©HOKKAIDO EVENTS）

仕事スペースとリラクゼーションスペースが十分にとれる宿泊施設

雄大な羊蹄山を望む遊休施設を利用した夏季限定のシェアオフィス